

令和2年度

# 事業計画

令和2年

公益財団法人 五島美術館

## ◆事業計画書

### I. 五島美術館(公益目的事業①)

#### 1. 展示事業

##### 1-1. 展覧会名とその概要

#### (1) [開館 60 周年記念名品展 I] 筆跡の雅び—古筆・古写本・近代書跡—

2020 年 4 月 4 日[土]—5 月 10 日[日]

五島美術館の収蔵品から書跡の優品約 50 点を選び展観(会期中一部展示替あり)。『古今和歌集』『後撰和歌集』などを多彩な表現でしたためた平安・鎌倉時代の「古筆」「古写本」から、かなの新たな造形美を追求した近代書家の作品まで、雅びな書の名品を紹介する。加藤純子氏制作の「紫式部日記絵巻 現状模写作品」も初公開。

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻 鈴虫一・二」4 月 28 日[火]—5 月 3 日[日・祝]／国宝「源氏物語絵巻 夕霧・御法」5 月 4 日[月・祝]—5 月 10 日[日]／国宝「紫式部日記絵巻 五島本」4 月 28 日[火]—5 月 10 日[日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(5 月 4 日は開館)、5 月 7 日[木]

#### (2) [開館 60 周年記念名品展 II] 絵画の彩り—歌仙絵・水墨画・日本画—

2020 年 5 月 16 日[土]—6 月 21 日[日]

五島美術館の収蔵品から絵画の優品約 50 点を選び展観(会期中一部展示替あり)。「絵巻断簡」「歌仙絵」「水墨画」「琳派絵画」「近代日本画」「中国絵画」など、奈良時代から昭和に至る多様な作品の数々を通じて、彩り豊かな美の世界を紹介する。特集展示として館蔵の文房具コレクションも同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

#### (3) [開館 60 周年記念名品展 III] 祈りの造形—古写経・墨跡・古版本—

2020 年 6 月 27 日[土]—8 月 2 日[日]

五島美術館の収蔵品から仏教関連の優品約 50 点を選び展観(会期中一部展示替あり)。奈良・平安時代の「古写経」や鎌倉・室町時代と宋・元時代の「墨跡」など、美しく荘厳な経文や仏の救いを説く高僧の書における祈りのかたちを紹介する。特集展示として館蔵の漆芸コレクションも同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

館内整備のため休館＝2020 年 8 月 3 日[月]—8 月 28 日[金]

(4) [開館 60 周年記念名品展Ⅳ]至高の陶芸—日本・中国・朝鮮—

2020 年 8 月 29 日[土]—10 月 25 日[日]

五島美術館の収蔵品からやきものの優品約 60 点を選び展観。古墳時代から江戸時代にかけての「日本陶磁」、唐・宋・明時代を中心とした「中国陶磁」、日本人にこよなく愛された「高麗・朝鮮陶磁」など、多彩な東洋陶磁の世界を紹介する。特集展示として館蔵の染織コレクションも同時公開(会期中一部展示替あり)。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(9 月 21 日は開館)、9 月 23 日[水]

(5) [開館 60 周年記念特別展]国宝 源氏物語絵巻

2020 年 11 月 3 日[火・祝]—11 月 29 日[日]

五島美術館の開館 60 周年を記念し、愛知・徳川美術館と五島美術館が収蔵する国宝「源氏物語絵巻」を一堂に集め、平安時代の華麗な王朝絵巻の世界を再現する。国宝「源氏物語絵巻」は、紫式部の『源氏物語』を絵画化した現存最古の絵巻作品。現存する全 19 場面の一挙公開は東京では 10 年振り。

一般 1500 円／高・大学生 1200 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(11 月 23 日は開館)、11 月 24 日[火]

特別鑑賞会(内覧会)・レセプション＝2020 年 11 月 2 日[月]

共催＝徳川美術館、日本経済新聞社(名義主催) 協力＝東急グループ(予定)

(6) [館蔵]茶道具取合せ展

2020 年 12 月 5 日[土]—2021 年 2 月 14 日[日]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約 70 点を選び展示(会期中一部展示替あり)。懐石道具・炭道具のほか、『玩貨名物記』『三冊名物記』『古今名物類聚』『大正名器鑑』などの名物記所載の名物茶道具を中心に道具の取合せを展観する。特集展示として、はじめての茶湯入門と題し、様々な種類の茶道具をわかりやすい解説とともに紹介する。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(1 月 11 日は開館)、12 月 25 日[金]—1 月 4 日[月]、1 月 12 日[火]

(7) [館蔵]中国の陶芸展

2021 年 2 月 20 日[土]—3 月 28 日[日]

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約 60 点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、2000 年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。特集展示として館蔵の刀剣コレクションも同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

## 1-2. 入館者数(目標)

2020年度の入館者数は合計で7万3千人の獲得を目標とする。このうち秋の開館60周年記念特別展「国宝 源氏物語絵巻」については、前回(2010年)、前々回(2000年)の実績をもとに、会期中に2万7千人の入館を想定している(会期中、入園のみは休止)。

(単位:入館者=人、開館日=日)

	有料	無料	計	入園者	合計	開館日	一日平均
(1) [開館60周年記念名品展Ⅰ]筆跡の雅び—古筆・古写本・近代書跡— ＜2020年4月4日[土]—5月10日[日]＞	7,776	736	8,512	448	8,960	32	280
(2) [開館60周年記念名品展Ⅱ]絵画の彩り—歌仙絵・水墨画・日本画— ＜2020年5月16日[土]—6月21日[日]＞	8,224	512	8,736	224	8,960	32	280
(3) [開館60周年記念名品展Ⅲ]祈りの造形—古写経・墨跡・古版本— ＜2020年6月27日[土]—8月2日[日]＞	4,064	608	4,672	128	4,800	32	150
(4) [開館60周年記念名品展Ⅳ]至高の陶芸—日本・中国・朝鮮— ＜2020年8月29日[土]—10月25日[日]＞	7,150	600	7,750	250	8,000	50	160
(5) [開館60周年記念特別展]国宝 源氏物語絵巻 ＜2020年11月3日[火・祝]—11月29日[日]＞	24,000	3,482	27,482	0	27,482	24	1,145
(6) 館蔵「茶道具取合せ展」＜2020年12月5日[土]—2021年2月14日[日]＞	8,215	848	9,063	212	9,275	53	175
(7) 館蔵「中国の陶芸展」＜2021年2月20日[土]—3月28日[日]＞	5,056	448	5,504	192	5,696	32	178
【合計】	64,485	7,234	71,719	1,454	73,173	255	287

## 2. 調査・研究・保存事業

### (1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続し、新規収蔵品等を中心に調査を進める。より正確なデータベースを構築するため、デジタルアーカイブへの取組みを進める。

### (2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

### (3) 美術品の補修

館蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行う。本年度は「武野紹鷗消息 句入文」、また昨年度に引き続き重要文化財「即休契了墨跡 餞別偈」(2ヶ年計画)などを修復予定。

#### (4) 美術品の保存

今後の保存対策のため、収蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。また収蔵庫内の収納棚の保存環境および利用時における安全性を見直し、より効率的な収納ができる保存環境を目指す。作品を保護するための包裂や箱、刀剣の鞘などを順次修理し、保存・管理の安全性を向上させる。また温湿度計、調湿剤を更新し、保存環境の改善にも留意する。併せて防虫・防黴のため IPM(総合的有害生物管理)を実施する。

#### (5) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

#### (6) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・ 全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会(大会出席)。
- ・ 各種研究会および研修会参加(染織文化史研究会、茶書研究会、文化庁企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、画賛研究会、源氏絵データベース研究会)。
- ・ 科学研究費助成事業への参加。

#### (7) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国美術館会議、私立美術館会議などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事、学術文化の交流に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていく。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

#### (8) ホームページ等の運営

五島美術館の公式ホームページ(URL=<https://www.gotoh-museum.or.jp/>)を充実し、インターネット上での美術館や収蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの充実を目指す。また、フェイスブック、ツイッターなど SNS の有効活用を促進する。

#### (9) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

#### (10) 日本伝統工芸展への協賛

公益社団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

(11) 国等各種公共機関・団体・大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の美術教育事業、専門機関への助言、職員の派遣等、美術館で必要と認められる対外活動を行う。

### 3. 普及事業

(1) ギャラリートーク(展示解説)——一般入館者対象

- ・[開館 60 周年記念名品展Ⅰ]筆跡の雅び—古筆・古写本・近代書跡—  
----- 2020 年 4 月 16 日、22 日、28 日、5 月 1 日、8 日の 5 回
- ・[開館 60 周年記念名品展Ⅱ]絵画の彩り—歌仙絵・水墨画・日本画—  
-----2020 年 5 月 20 日、6 月 3 日の 2 回
- ・[開館 60 周年記念名品展Ⅲ]祈りの造形—古写経・墨跡・古版本—  
----- 2020 年 7 月 3 日、15 日、29 日の 3 回
- ・[開館 60 周年記念名品展Ⅳ]至高の陶芸—日本・中国・朝鮮—  
----- 2020 年 9 月 2 日、9 日、10 月 2 日、8 日の 4 回
- ・[開館 60 周年記念特別展]国宝 源氏物語絵巻  
----- 未定
- ・[館蔵]茶道具取合せ展  
----- 2020 年 12 月 9 日、16 日、2021 年 1 月 22 日、27 日、2 月 11 日の 5 回
- ・[館蔵]中国の陶芸展  
-----2021 年 2 月 24 日、3 月 24 日の 2 回  
\* 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(2) 茶会(当館主催)——茶の友会会員対象

- ・第 1 回=2020 年 10 月 15 日～18 日の 4 日間
- ・第 2 回=2021 年 3 月 11 日～14 日の 4 日間
- \* 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(3) 陶芸講座(当館主催)——美の友会会員対象

- ・第 1 回=2020 年 5 月 30 日・31 日 予定 定員(各日 35 名)
- ・第 2 回=2020 年 9 月 26 日・27 日 予定 定員(各日 35 名)
- ・第 3 回=2021 年 1 月 30 日・31 日 予定 定員(各日 35 名)

(4) 美の友会月例美術講座(当館主催)——美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座(各月 2～3 回)として(本年度 29 回)開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の収蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

◇書跡鑑賞シリーズXV「はじめての日本書道史」

五島美術館に収蔵される日本書道史を彩る名品の数々。本講座では、これらの館蔵書跡を中心に取り上げながら、日本の書の歴史を紐解いてゆく。また、各回の最後には館蔵書跡の読み方も紹介。全10回の連続講座を通して、書跡の読み方に触れることで展覧会での作品鑑賞を助ける(8月・11月は休講)。  
〈担当＝五島美術館学芸部 佐々木佑記〉

- 第1回 2020年 4月 4日[土] 「日本書道史ことはじめ」
- 第2回 2020年 5月 2日[土] 「漢字の伝来と中国書跡の受容—古墳・飛鳥・奈良時代」
- 第3回 2020年 6月 6日[土] 「古写経の世界—奈良・平安時代」
- 第4回 2020年 7月 4日[土] 「三筆・三蹟—平安時代」
- 第5回 2020年 9月 5日[土] 「和歌と古筆①—平安時代」
- 第6回 2020年 10月 3日[土] 「和歌と古筆②—平安・鎌倉時代」
- 第7回 2020年 12月 5日[土] 「墨跡と宸翰様—鎌倉・南北朝・室町時代」
- 第8回 2021年 1月 9日[土] 「書流の展開と寛永の三筆—桃山・江戸時代」
- 第9回 2021年 2月 6日[土] 「和様と唐様—江戸時代」
- 第10回 2021年 3月 6日[土] 「近代の書の展開」

◇染織鑑賞シリーズXIII「これだけは覚えてたい名物裂」

美術館や茶席などで鑑賞される作品には、日本の長い歴史を語る由緒ある名品が数多く存在する。同時にそれらに付属する染織品も古い裂地が使用され、江戸時代には「名物裂」として知られるようになった。本講座はそのような名品に付属する「名物裂」を取り上げ、名品とともに鑑賞するための「これだけは覚えてたい名物裂」を厳選し紹介する。

〈担当＝五島美術館学芸部 佐藤留実〉

- 第1回 2020年 4月 11日[土] 「名物裂について—高僧の袈裟と名物裂」
- 第2回 2020年 5月 9日[土] 「名画と名物裂」
- 第3回 2020年 6月 13日[土] 「名物茶入と名物裂」
- 第4回 2020年 7月 11日[土] 「茶の湯と名物裂」

◇絵画鑑賞シリーズX「源氏絵と源氏物語絵巻」

昨年度に引き続き、現存する国宝「源氏物語絵巻」各画面の概要を順次紹介していく(8月は休講。第1～10回は昨年度実施)。

〈担当＝五島美術館学芸部 渡川直樹〉

- 第11回 2020年 4月 18日[土] 「国宝 源氏物語絵巻 夕霧・御法」
- 第12回 2020年 5月 16日[土] 「国宝 源氏物語絵巻 竹河」
- 第13回 2020年 6月 20日[土] 「国宝 源氏物語絵巻 橋姫・早蕨」
- 第14回 2020年 7月 18日[土] 「国宝 源氏物語絵巻 宿木」
- 第15回 2020年 9月 19日[土] 「国宝 源氏物語絵巻 東屋」

#### ◇陶磁鑑賞シリーズⅧ「名品を深読みする」

五島美術館収蔵品から選び出された1点の名品にスポットを当て、作品を取り巻く時代背景、作品の前後にある歴史的展開、作品に対する評価の形成過程にも目を向けて「深読み」することで、その魅力を十二分に堪能する。なお本シリーズに登場する作品は日本古代1点、日本中近世2点、中国2点、朝鮮1点から構成(11月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 田代裕一郎(第1・3・5回)・菅沢そわか(第2・4・6回)〉

- 第1回 2020年 9月 12日[土] 「白磁壺―「満月」にたとえられた朝鮮の壺」
- 第2回 2020年 10月 10日[土] 「猿投灰釉長頸瓶―知られざる日本陶磁の源流」
- 第3回 2020年 12月 12日[土] 「鼠志野茶碗 銘 峯紅葉―桃山陶、近代における注目」
- 第4回 2021年 1月 16日[土] 「染付辻堂香合―一番付最高位の名品と日本好みの美」
- 第5回 2021年 2月 13日[土] 「色絵山水文大鉢―日本初の色絵磁器「古九谷」
- 第6回 2021年 3月 20日[土] 「青磁鳳凰耳瓶―世界を魅了した青磁と唐物賞玩」

#### ◇古典籍鑑賞シリーズⅡ「江戸の詩歌軸を読む」

大東急記念文庫は江戸時代の学者自筆の詩歌軸を多数収蔵している。その学問は大きく「和学」(和歌や有職故実など、日本の古典の学問)と「漢学」(漢詩や儒学など、漢字文化の学問)とに分類出来る。本講座では軸に書かれた字と捺された印を読むことでくずし字や篆書に親しみつつ、詩や歌の内容を解釈してゆく。また、講座で扱う人物を中心に江戸時代の学問世界を概観する。初心者歓迎。

〈担当＝大東急記念文庫学芸部 長田和也〉

- 第1回 2020年 12月 19日[土] 「和学者①―契沖・春満・真淵・宣長」
- 第2回 2021年 1月 23日[土] 「和学者②―江戸時代後期の和学者」
- 第3回 2021年 2月 20日[土] 「漢学者①―江戸の漢学者」
- 第4回 2021年 3月 27日[土] 「漢学者②―江戸以外の漢学者」

#### (5) 青少年向け普及講座

小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ① 「こども美術講座 日本画を知ろう」 2020年 6月 7日[日]
- ② 小・中学校等へ出張講義に赴く予定(日程未定)

#### (6) ミュージアム・コンサート

音楽を通じて、芸術・文化に触れる機会を提供し、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。

- 2020年 7月 8日[水] クアルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏演奏会
- 9月 16日[水] 長唄演奏会―和のこころを聴く

#### (7) 茶室特別公開

公開日＝2020年5月27日[水]

(「開館60周年記念名品展Ⅱ 絵画の彩り—歌仙絵・水墨画・日本画—」期間中)

2021年2月3日[水](「館蔵 茶道具取合せ展」期間中)

入館者を対象に、通常非公開の茶室「古経楼」「富士見亭」の解説を学芸部が行う。

#### (8) 東急グループとの連携事業

東急グループとの連携事業を推進することにより、美術館や展覧会に対する理解を深める様々な機会を提供する。

- ① 特別鑑賞会「東急グループ感謝のつどい」開催への協力
- ② 東急グループ主催の社会貢献活動(とうきゅうキッズプログラム、キラリプラスカレッジ等)への協力
- ③ 東急文化村「MY Bunkamura」とのタイアップ企画の実施
- ④ 「東急ロイヤルクラブ」との連携イベントの実施
- ⑤ 東急グループ「五島美術館名品集」カレンダーの制作監修

#### (9) 他館等との連携事業

展示内容の親和性が高い根津美術館、三井記念美術館、近隣の静嘉堂文庫美術館、世田谷美術館をはじめ、他の美術館、博物館など文化施設等との連携事業を積極的に推進する。

#### (10) インバウンド需要への対応

訪日外国人観光客の増加によるインバウンド需要の拡大に対応するため、昨年度、館内案内サインの多言語化(日・英・中簡・中繁・韓)や音声自動翻訳機器「ポケットク」の導入などを実施したが、今後も引き続いて館内施設やホームページの表記等の具体的対策を進めていく。

#### (11) その他

昨年からはじめた国宝「源氏物語絵巻」の4K映像の常時上映を継続して、インバウンドを含む遠来の来館者の期待に応えていく。

また普及活動の一環として制作した美術館のオリジナルグッズなどは、館内のミュージアムショップ等での販売を継続していく。

以上

## II. 大東急記念文庫(公益目的事業②)

### 1. 文庫事業

#### (1) 図書保存

- ・文庫収蔵庫内の和古書と参考書誌、図書資料等との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、収蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・収蔵庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期し、予防策として本年も IPM を実施する。新収資料の防虫には特に留意する。
- ・不慮の災害に備え、資料の写真撮影などの副本作りを継続的に進める。本年度も『大般若波羅蜜多経』(鎌倉中期写本)等を撮影する。

#### (2) 図書修理

新収蔵資料の裂帙箱の新装、未表装資料の表装を行なう。

#### (3) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料(辞典、叢書、全集、記録類等)や、必要な場合は古典籍資料を購入する。

#### (4) 図書調査

最明寺(足柄上郡大井町)等、他機関収蔵の古典籍資料調査を行なう。

#### (5) 図書閲覧

書誌学、国文学等の学術研究に資するため、大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう。

#### (6) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学、保存科学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

#### (7) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第 29 回配本第 15 巻「国史・古記録・寺誌」、第 30 回配本第 17 巻「美術」、第 31 回配本第 18・19 巻「古文書・名家筆蹟」の刊行準備をする。
- ・機関誌「かがみ」第 51 号を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、影印本、マイクロフィルム等を頒布する。

#### (8) 普及

・各種団体(大学・研究会・図書館等)の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。

- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(9) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

(10) 国等各種公共機関・団体、大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言、職員の派遣等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

以 上

# 収支予算書

令和 2年 4月 1日から令和 3年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 11,530,000]	[ 11,530,000]	[ 0]
特定資産運用益	[ 10,000]	[ 10,000]	[ 0]
公益事業収益	[ 155,074,000]	[ 137,354,000]	[ 17,720,000]
受取補助金等	[ 2,849,000]	[ 1,740,000]	[ 1,109,000]
受取寄付金	[ 213,868,000]	[ 216,692,000]	[△ 2,824,000]
雑収	[ 70,000]	[ 70,000]	[ 0]
経常収益計	383,401,000	367,396,000	16,005,000
(2) 経常費用			
事業費	[ 365,059,000]	[ 341,081,000]	[ 23,978,000]
管理費	[ 29,115,000]	[ 27,692,000]	[ 1,423,000]
経常費用計	394,174,000	368,773,000	25,401,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 10,773,000	△ 1,377,000	△ 9,396,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 10,773,000	△ 1,377,000	△ 9,396,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
指定正味財産へ振替	[ 0]	[ 3,400,000]	[△ 3,400,000]
経常外費用計	0	3,400,000	△ 3,400,000
当期経常外増減額	0	△ 3,400,000	3,400,000
当期一般正味財産増減額	△ 10,773,000	△ 4,777,000	△ 5,996,000
一般正味財産期首残高	1,001,158,436	1,005,935,436	△ 4,777,000
一般正味財産期末残高	990,385,436	1,001,158,436	△ 10,773,000
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	[ 6,000,000]	[ 0]	[ 6,000,000]
一般正味財産からの振替額	[ 0]	[ 3,400,000]	[△ 3,400,000]
一般正味財産への振替額	[△ 69,868,000]	[△ 69,692,000]	[△ 176,000]
当期指定正味財産増減額	△ 63,868,000	△ 66,292,000	2,424,000
指定正味財産期首残高	3,732,203,678	3,798,495,678	△ 66,292,000
指定正味財産期末残高	3,668,335,678	3,732,203,678	△ 63,868,000
III 正味財産期末残高	4,658,721,114	4,733,362,114	△ 74,641,000

# 収支予算書

令和 2年 4月 1日から令和 3年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 11,530,000]	[ 11,530,000]	[ 0]
基本財産受取利息	9,426,000	9,426,000	0
基本財産受取配当	2,104,000	2,104,000	0
特定資産運用益	[ 10,000]	[ 10,000]	[ 0]
特定資産受取利息	10,000	10,000	0
公益事業収益	[ 155,074,000]	[ 137,354,000]	[ 17,720,000]
展示事業収益	69,890,000	57,038,000	12,852,000
調査研究事業収益	13,788,000	7,670,000	6,118,000
普及事業収益	19,000,000	20,500,000	△ 1,500,000
文庫事業収益	1,700,000	1,700,000	0
カレンダー一収益	38,096,000	40,346,000	△ 2,250,000
売店収益	12,600,000	10,100,000	2,500,000
受取補助金等	[ 2,849,000]	[ 1,740,000]	[ 1,109,000]
受取国庫補助金	1,965,000	1,200,000	765,000
受取地方公共団体補助金	884,000	540,000	344,000
受取寄付金	[ 213,868,000]	[ 216,692,000]	[△ 2,824,000]
受取寄付金	144,000,000	147,000,000	△ 3,000,000
受取寄付金振替額	69,868,000	69,692,000	176,000
雑収益	[ 70,000]	[ 70,000]	[ 0]
受取利息	0	50,000	△ 50,000
有価証券運用益	0	10,000	△ 10,000
雑収益	70,000	10,000	60,000
経常収益計	383,401,000	367,396,000	16,005,000
(2) 経常費用			
事業費	[ 365,059,000]	[ 341,081,000]	[ 23,978,000]
役員報酬	6,529,000	6,480,000	49,000
給料手当	92,160,000	82,739,000	9,421,000
臨時雇賃金	20,205,000	16,633,000	3,572,000
退職給付費用	13,788,000	13,130,000	658,000
福利厚生費	15,956,000	17,174,000	△ 1,218,000
会議費	346,000	346,000	0
旅費交通費	202,000	202,000	0
交際費	102,000	102,000	0
通信運搬費	5,306,000	5,177,000	129,000
減価償却費	70,497,000	70,399,000	98,000
消耗什器備品費	1,556,000	1,556,000	0
消耗品費	1,253,000	1,253,000	0
修繕費	5,500,000	6,346,000	△ 846,000
修理費	5,349,000	2,183,000	3,166,000
印刷製本費	14,757,000	14,258,000	499,000

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
宣 伝 広 告 費	8,556,000	8,556,000	0
光 熱 水 料 費	7,290,000	7,290,000	0
保 険 料	896,000	864,000	32,000
諸 謝 金	150,000	150,000	0
租 税 公 課	6,020,000	4,662,000	1,358,000
庭 園 管 理 費	5,046,000	5,046,000	0
委 託 費	13,475,000	13,475,000	0
展 覧 会 費	18,990,000	14,879,000	4,111,000
催 物 費	15,456,000	15,456,000	0
調 査 研 究 費	7,980,000	6,488,000	1,492,000
雑 費	1,119,000	1,119,000	0
カ レ ン ダ ー 制 作 費	17,864,000	18,129,000	△ 265,000
シ ョ ッ プ 原 価	8,711,000	6,989,000	1,722,000
管 理 費	[ 29,115,000]	[ 27,692,000]	[ 1,423,000]
役 員 報 酬	4,352,000	4,320,000	32,000
給 料 手 当	13,347,000	12,121,000	1,226,000
退 職 給 付 費 用	1,532,000	1,459,000	73,000
福 利 厚 生 費	2,641,000	2,843,000	△ 202,000
会 議 費	310,000	310,000	0
旅 費 交 通 費	398,000	110,000	288,000
交 際 費	210,000	210,000	0
通 信 運 搬 費	338,000	338,000	0
減 価 償 却 費	3,712,000	3,706,000	6,000
消 耗 什 器 備 品 費	53,000	53,000	0
消 耗 品 費	105,000	105,000	0
印 刷 製 本 費	64,000	64,000	0
光 熱 水 料 費	379,000	379,000	0
諸 謝 金 費	1,464,000	1,464,000	0
雑 費	210,000	210,000	0
經常費用計	394,174,000	368,773,000	25,401,000
評価損益等調整前当期經常増減額	△ 10,773,000	△ 1,377,000	△ 9,396,000
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	△ 10,773,000	△ 1,377,000	△ 9,396,000
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
指 定 正 味 財 産 へ 振 替	[ 0]	[ 3,400,000]	[△ 3,400,000]
受 取 寄 付 金 振 替 額	0	3,400,000	△ 3,400,000
經常外費用計	0	3,400,000	△ 3,400,000
当期經常外増減額	0	△ 3,400,000	3,400,000
当期一般正味財産増減額	△ 10,773,000	△ 4,777,000	△ 5,996,000
一般正味財産期首残高	1,001,158,436	1,005,935,436	△ 4,777,000

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
一般正味財産期末残高	990,385,436	1,001,158,436	△ 10,773,000
II 指定正味財産増減の部			
受 取 寄 付 金	[ 6,000,000]	[ 0]	[ 6,000,000]
一般正味財産からの振替額	[ 0]	[ 3,400,000]	[△ 3,400,000]
受取寄付金振替額	0	3,400,000	△ 3,400,000
一般正味財産への振替額	[△ 69,868,000]	[△ 69,692,000]	[△ 176,000]
受 取 寄 付 金	△ 69,868,000	△ 69,692,000	△ 176,000
当期指定正味財産増減額	△ 63,868,000	△ 66,292,000	2,424,000
指定正味財産期首残高	3,732,203,678	3,798,495,678	△ 66,292,000
指定正味財産期末残高	3,668,335,678	3,732,203,678	△ 63,868,000
III 正味財産期末残高	4,658,721,114	4,733,362,114	△ 74,641,000